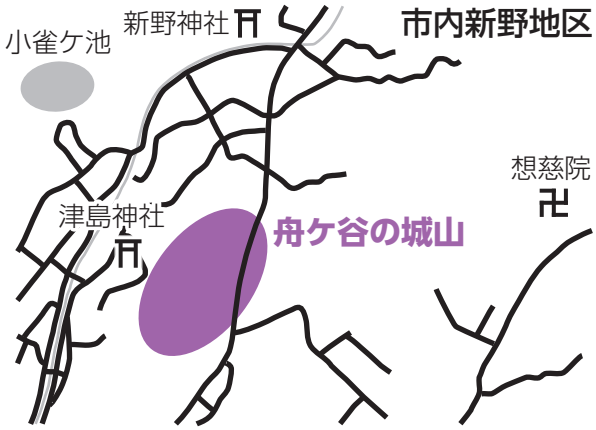
History

キラリを再発見

舟ケ谷の城山（新野有ケ谷方面より）



埋蔵文化財包蔵地

舟ケ谷の城山

新野氏の居城の可能性がある城跡

舟ケ谷の城山は、新野地区篠ケ谷、有ケ谷、宮田にあり、牧之原台地の枝状丘陵が新野の中心平野部に張り出した先端に位置しています。

この城山は、この地の領主とされる今川系新野氏の居城と伝えられていますが、現在わずかに残る遺構には、武田式築城法の特徴がみられることから、八幡平城と同じく、最初に今川系新野氏によって築かれた城が、後に武田氏によって高天神城とのつなぎの城として修築、再利用されたものと考えられます。

かつては本曲輪などの遺構がよく残っていましたが、その後、切り通しによる大規模農道が城の中を通り、城の中心部が採土工事で破壊されたため、当時の姿はとどめていません。

照　会　社会教育課　☎0548㊸1129

Atomic

暮らしと原子力

再生エネルギーの拡大でバランスの取れた電源構成を

経済産業省は平成27年7月、エネルギー基本計画を踏まえた、中長期的な視点から「長期エネルギー需給見通し」を策定し「2030年度時点の電源構成」を示しました。東日本大震災前に約30パーセントを占めていた原子力比率は、20パーセント～22パーセント程度へと大きく低減しました。

エネルギー基本計画の基本的視点となっている「S＋3E（安全性、安定供給、経済効率性および環境適合）」の目標を達成するためには、バランスの取れた電源構成とする必要があります。

例えば、二酸化炭素排出抑制のためには、再生可能エネルギーを拡大し、石炭火力を抑制することが必要ですが、電力コスト低減のためには、再生可能エネルギーを抑制し石炭火力を拡大する必要があります。

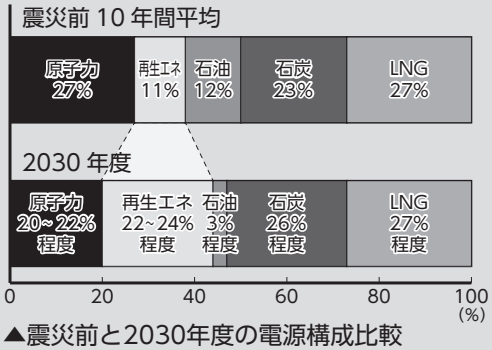
2030年度時点の電源構成のポイント

①再生エネルギー比率

再生エネルギー比率は、各電源の個性に応じた最大限の導入拡大と国民負担の抑制を前提に、東日本大震災前の10パーセントから22～24パーセントに引き上げられました。

②原子力比率

原子力については、S＋3Eの目標を達成する中で、可能な限り低減することが基本方針となっています。



▲震災前と2030年度の電源構成比較